

「あいさつは魔法の言葉」

校長 安藤 徹



今日から5月です。もともと日本には1月、2月というような月を数字でを表す言葉はなく、昔は5月は「さつき」と呼ばれていました。さわやかな青空の天気のことを「五月晴れ（さつきばれ）」と呼ぶのもこの5月によく見られるさわやかな空だからです。それでは、「五月」に「蠅（ハエ）」で「五月蠅い」と書いて何と読むか知っていますか？そうです、「ハエ」はあの、ブーンと飛んでくる虫のハエのことです。実は・・・「うるさい」と読むのです。なぜそんなふうに住むようになったかというのには諸説あるようですが、5月に飛び始めるハエが食べ物や人の周りにぶんぶん飛び始め、「うるさい」からだという説が有力なようです。



そんなハエたちも元気に飛び回り始める5月に入り、新年度が始まり約1か月たちました。特に新入生の皆さんは新しい学校生活で緊張と先の見通しを持ちにくい中、精一杯がんばってきたので、きっと心身ともに疲れが出てきているところかと思います。これから始まるゴールデンウィークで心も体も少しリフレッシュしてほしいと思います。

ところで、4月の入学式、そして始業式の中で私は「同じチーム岩戸のメンバー同士元気にあいさつをしましょう」という話をしました。覚えているでしょうか？漢字の話ばかりになってしまい申し訳ありませんが、あいさつを漢字で書くと「挨拶」となります。この2文字の漢字はもともと仏教用語で「相手に対して自分の心を開き、尊敬や感謝などを表す礼儀的な動作・言葉」という意味があるそうです。

私も特別支援学校の教員として授業の中ではよく「あいさつは大切だからしましょう、または、しなくてははいけません」というようなことを繰り返し生徒に伝えてきました。しかし、なぜあいさつが大切なのか、なぜあいさつをしたほうが良いのかということについては意外に伝えてこなかったように思い、反省しています。そこでここではあいさつの大切さについて少し考えてみたいと思います。



- ① 先ほどの説明の通り「あいさつ」は自分と相手の心を開くこと、つまりまずは同じ仲間、同じチームのメンバーとして「わたしはあなたに心を開きます」ということを伝えるものだということです。
- ② 『あいさつは「あなたは大切な人なのですよ」と伝える最良の手段であり、お互いが、お互いのおかげで生きていることを自覚し合う、かけがえのない機会なのです。』これは渡辺和子さん（ノートルダム清心学園元理事長）という人の『置かれた場所で咲きなさい』という本に書かれていた一節です。つまりあいさつは「私はあなたとつながっていて、あなたのおかげで生きています」ということを伝えるものだということです。

とにかく、あいさつは人と人が出会い、同じ時間や場所・空間を共有していくために必要な「魔法の言葉」です。「顔見て、目を見て、心見て」これからも岩戸支援学校のメンバーとしてお互いに気持ちよくあいさつできたらよいですね。

令和5年5月1日